

ハヤヨミ！ 看護政策 No.363

都道府県看護協会長 様
本会職能委員 様

日本看護協会 広報部
2022年8月2日



生きるを、ともに、つくる。
公益社団法人 日本看護協会

看護職員の処遇改善について議論 — 中医協総会 —

公開可

◎看護職員の処遇改善について議論

中医協総会

7月27日に中医協が開催され、看護の処遇改善（その3）について、①処遇改善に係る点数の設計②診療報酬点数算出等に係る要件③処遇改善に係る要件について議論した。①については、令和4年度の看護職員の処遇改善に係る特別調査結果からも、基本診療料である入院料を対象とし、100種類に細分化した点数設定の「モデル①-2」が適当であると診療側・保険者側委員の双方から意見が出た。さらに、100種類から外れた医療機関についてもカバーできる点数設定を検討することが必要とした。②については、判定に用いる期間は、前々年度1年間の実績を用いること、点数設定の頻度と算出については「3カ月毎に3カ月の実績」か「3カ月毎に直近の6カ月の実績」のどちらかとした。届け出変更・点数再設定の基準については、3カ月を超えない期間の1割以内の一時的な変動は変更の届け出を行う必要はないとし、「1割」とすることに異論は示されなかった。③については、看護職員等処遇改善事業補助金（以下補助金）と同様とすることに異論はなかった。また、診療側委員からは、対象病院について、補助金事業では、医療機関で検討した結果、申請を断念した病院があることから、算定は希望する病院を対象にするようとの意見が出た。吉川常任理事は①②について、診療側委員と同様の意見を述べた。次回8月3日の中医協において、令和4年度診療報酬—看護における処遇改善部分—の短冊が示される予定。（執筆：吉川常任理事）

◎次期医療計画に向け5事業について議論

第8次医療計画等に関する検討委員会

7月27日に第8次医療計画等に関する検討会が開催され、5事業（救急、災害、へき地、周産期、小児）についての進捗状況が報告され議論した。また、へき地、周産期、小児について、参考人から現状や課題、検討状況についてヒアリングした。へき地医療については、医師不足に加え、移動コストがかかり効率が悪いこと、オンライン診療を実施しているへき地医療機関では、「DtpwithN」が主流であり、看護師がいればできることが紹介され、今後オンライン診療の導入案が示された。周産期医療では、NICUの集約化、ハイリスク妊産婦への対応、産科混合病棟の体制整備、医療的ケ

<お問合せ先> 日本看護協会 広報部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 電話：03-5778-8547 FAX：03-5778-8478

Eメール koho@nurse.or.jp ホームページ <https://www.nurse.or.jp/>

ア児への支援、医師の働き方改革への対応などの提案がされた。小児医療では、医療機能の明確化と圏域設定の在り方、医療的ケア児への医療体制整備、協議会の充実等について提案された。吉川常任理事は、救急医療について、救急外来の看護師配置は重要であることから、看護師配置の在り方について優先度高く検討することを意見した。さらに災害医療については、災害時の看護師確保、派遣調整について医療計画の指針の中に記載し、都道府県の医療計画において体制整備をしていく必要があるが、そのような視点で検討をしているか質問した。事務局は、医療保険チームの活動について検討していると回答した。(執筆：吉川常任理事)

「ハヤヨミ！ 看護政策」は、看護政策関連の情報や本会の動きを、都道府県看護協会の皆さまと本会職能委員の皆さまにお伝えするものです。内部活用を基本としていますが、中見出しに記載している「○」は公開可能な内容、「■」は公開をお控えいただきたい内容です。情報の取り扱いには、ご留意いただくようお願い申し上げます。